

京都市教育長

Daisaku Kadokawa

門川

大作

編集長

インタビュー

Number 546

インタビュー・本誌編集長 湯谷昇平 写真・近藤宏樹 / REAL

——京都市は、公教育改革にかけてはまさに先進的な成功例で、全国から注目されています。今日の改革に至る前の状況は。

門川 京都はもともと教育を大事にする地域でした。一八六九（明治二）年、町衆が日本初の学校を自らつくり上げた「**竈金**」という言葉があるんですが、**竈**のある家がカネを出し合って学校をつくったという経緯がある。しかし、戦後はイデオロギーの対立が教育現

場にまで持ち込まれ、非常に不幸な時代があったことも事実です。

そうしたなか、一九九二年に、当時の榎本頼兼教育長（現京都市長）が、現場主義に徹した改革を始めたわけです。先輩たちが時代に迎合せず、「**ほんまもん**」の教育を求めて本質的な取り組みをしてくれたおかげで今があるのです。

——具体的には、どのような改革路線だったのですか。

門川 たとえば、一年間に市内の

“**竈金**の精神”は生きている！
地域ぐるみでつくり上げた
「**ほんまもん**」の教育改革
総合学習こそキーワードだ

公教育の荒廃が全国的な課題となっていたなか、先進的な取り組みによって教育改革に成功したのが京都市。「公教育のモデル都市」はいかにして生まれたのか、門川教育長にその軌跡を聞く。

三・一六校全校を回り、すばらしい実践をしている学校の取り組みを全市に広め、逆に課題のある学校へは徹底的な指導をしました。

——その時代の蓄積が生きたと。

門川 たとえば、京都市独自の指導計画・指導教材ですが、小中学校の学年ごとに「京都スタンダード」として戦後一貫して作成し、全教員が活用してきました。現在は、学力向上を目指し、国の学習指導要領を超える内容になってい

ます。もちろん、道徳も盛り込んでおり、この基準の上に教師の自主性、創造性、学校ごとの特性を出していく。道徳の指導教材なども学年ごとに作成しています。

私が教育長になったとき、長年京都の教育にご指導いただいたいきな文化庁長官・河合隼雄先生にご相談し、道徳教育振興市民会議を発足させ、市民アンケートを実施しました。「やっていいことと悪いことを、皆で考えてみませんか」



かどかわ・だいさく／一九五〇年生まれ、京都市出身、五五歳。六九年京都市立堀川高等学校卒業、七四年立命館大学法学部卒業。九六年京都市教育委員会総務部長、九九年教育次長、二〇〇一年委員・教育長に就任。〇三年より中央教育審議会委員、〇五年「教員免許更新制」ワーキンググループ委員を兼務。

と。結果は、なんと二万二三〇〇人が答えてくださいました。この結果をまとめた本は、市内の大型書店でベストセラーになりましたし、おかげで、参加型の道徳授業を行なう学校も増えてきています。

学校と家庭と地域の三者が補完し合う

——学校評価システムは、どういうかたちでされているのですか。

門川 自己評価とともに外部の評価が必要と、二〇〇三年に全校で外部評価を含めた学校評価システムを導入しました。その結果、大きな効果がありましたね。一生懸命やっているのに、評価が厳しいこともある。すると、やはり説明責任を果たさならん。知ってもしらわならんという意識になる。子どもの現状、学校の方針をきちっと知ってもらおう。あるいは親に参観してもらおうと。

進んだ学校では、月曜から金曜まで五日間連続して参観日にし、それを年三回やっている。本物の開かれた学校づくりです。

さらに、これは京都独自の考え方もありませんが、学校だけを評価するのではなく、子どもの学び育ちの場である家庭と地域、学校の三者が共同の営みとしての教

育活動に参画し、共に評価し合う関係になることが大事です。

——校長の裁量を拡大されている点でも、先駆けていますね。

門川 地方分権が叫ばれています。が、組織内分権も大切です。また、学校と家庭、地域三者の関係改善がキーワードです。

家庭・地域が学校を高め、学校が家庭・地域を高める。双方向の信頼関係の確立です。そのため、○一年に、全校で学校評議員制度も発足させています。さらに、地域、保護者が学校運営に参画する、新たな学校運営協議会制度を推奨しています。○六年には三十数校に増えます。

こうした取り組みのなかで、教育委員会があしろうしろと言っているのではなく、校長に権限を委ねていく必要があります。たとえば予算。京都府は京都議定書発祥の地です。全校で環境宣言をしてもらいました。光熱水費を節約すれば、図書費に回せる。今一生懸命やっているのはトイレ清掃です。教育活動として、生徒と教師と保護者、地域の人が一緒に清掃をする。今までのトイレ清掃費でコンピュタを買ってもいいですよ。そういうことを校長に委ねていく。

また、校長裁量で小学校高学年に教科担任制を採用しています。

——小学校は普通、クラス担任制ですよ。

門川 ええ。そこを、約八割の学校で実施しています。

教育改革の場合、「日本中の二万数千校の小学校で条件が整わなかったら始まらない」というケースが多いですが、できるところから始めて、ここまでできました。また、日本全国どこでも、年間授業日数は一九七〇一九八日です。暦の関係で三〇四日の年度差が出る。これを〇三年度から校長裁量に任せ、授業日数を増やしました。

——そこまで校長の判断で？

門川 はい。熱心なところでは、二〇五日行なう学校も出てきました。そこで、○六年度はさらに夏休みを短くし、入学式を早め、二〇五日を最低基準にし、それ以上

「竜金の精神」は生きている！

地域ぐるみでつくり上げた「ほんまもん」の教育改革
総合学習こそキーワードだ



を目指します。これは全国最多なんですね。学力も情操教育も大事。教科と総合学習を両立させるには、授業時数の増加が重要です。

——一方、教職員の指導や教育についてはどのような工夫を？

門川 京都市の教職員は熱意に溢れていますし、頑張ってもらっています。たとえば、コンピュタを使って指導できる教員は九九・五%です。全国平均が六八%ですから断トツのトップです。夜間研修の成果です。しかし、課題のある先生もおられましたので、研修システムを再点検し、指導力の向上に取り組んできました。全体的には大きく改善されましたが、それでもダメな人は、七年間で一〇〇人ほど、教壇から去ってもらいました。断腸の思いでした。

一方で、優秀な先生をどんどん表彰していくと、毎年五〇〇、六〇〇人の教員を表彰しています。その表彰はオープンに、フェアにということ。選考委員会も市民代表、保護者代表、経済界の代表などで構成しています。

また、教員の採用試験も、面接官にPTA、ボーイスカウト、ガールスカウト、青少年育成団体、経済界の代表などを交えています。

——珍しいことですね。

門川 指導力向上で大きな成果が上がった根幹の取り組みは、すべての教員が指導計画を作成したこと

とです。たとえば小学校ですと、翌週の週間指導計画をきっちりつくる。そして校長に提出する。

そして、校長、教頭はすべての仕事に優先して教室に入る。一時間の授業を一カ月に一回は見ると。これは「入り込み指導」と呼んでいます。教育委員会は、すべての仕事に優先して学校現場を回る。企業でいえば、生産現場を大事にするということですかね。それを徹底してやりました。

普通の高校が
全国トップに
躍り出た背景

——教師の研修サポート体制は。

門川 京都市の総合教育センターは、全国で唯一、夜九時まで、土曜もオープン。そこで、ものすごく熱心な研修が行なわれているのです。もう一つは、教員の自主的な研究会組織です。一二七番目になります。先日、学校茶道研究会というのができました。

新規採用の教員はいずれかの研究会に入る。ですから、教育委員会の研修、教育委員会と研究会のタイアップした研修、研究会の自主研修の三つの研修を受けます。

また、全国で初めてカリキュラム開発支援センターをつくりました。ここでは優れた授業のカリキ

は、学校での学びと、生活、家庭、地域とが乖離していることです。この総合的な学習は、学校だけではできない。地域全体を学びの場にするという取り組みのなかで、地域が協力してくれて初めて、クルマの両輪になる。

すべての子を 退屈させない 教育を目指す

——モチベーションを高めていくと、すごい効果が出ると。

門川 もちろん、新しい学科ができたから、意欲的な生徒が入ってきたことは事実です。しかし、京都は私学がすごく盛んな地域ですから、そういう学校はなんぼでもある。むしろ、教員たちが、生徒が入学したい学校にしようと必死になり始めたことが大きい。

全教員でシラバスを作成した。

講義概要です。それを持って、二人一組で中学校回りをするなど、教師が意識変革をしたのです。

その堀川高校からどんな教師が育ち、今、西京高等学校などで改革が進んでいます。

要するに、堀川高校がパイロット校になったわけですね。

門川 ええ。あの堀川でできたんやから、どこでもできると(笑)。

市立御所南小学校も、別の意

味で注目されています。

門川 はい。

某社が行なった学力調査で日本一だったことが、注目の発端でした。

しかし、京都市で特に突出

した学校ではありません。同校は文部科学省の研究開発校の指定を受け、独自のコミュニケーションをつくり上げました。そこで、同校などをモデルに全学校の教員研修を行ない、指導資料を徹底的につくった。総合学習も全国に先駆け、三年前倒しで九七年から全校で開始しました。

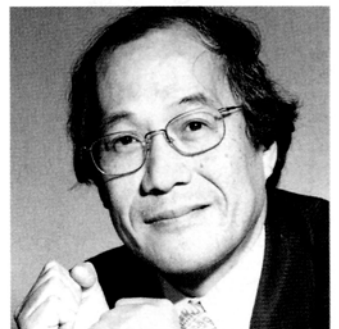
——教員の異動については？

門川 京都市のフリーエージェンツ制度、もう一つは組織内公募制で、さらに学校運営協議会を設置した学校、いわゆるコミュニケーション

スクールの場合は、校長とコミュニケーション、地域の代表が面接し、教育委員会に申請してもらいます。

——要所要所に必ず地域代表が入っているわけですね。

門川 学校と家庭、地域が、批判し合うのではなく、足りないところを足し合おうという関係をつくっていききたい。そのためにも、参観から参画へ、徹底して開かれた学校にします。同時にこれは、気



聞き手 独白

「電金の精神」は生きている！
地域ぐるみでつくり上げた「ほんまもん」の教育改革
総合学習こそキーワードだ

をつけなければならないことでもあります。校長はよほど主体性を発揮せんかったら、地域に、保護者に振り回されますから。

——企画段階からPTA代表、地域代表、市民代表に入ってもらったり方もしていますね。たとえば「みやこ子ども土曜塾」など。

門川 はい。土曜・日曜にほんまに子どもの学びの場が保証できているかどうか、非常に疑問やと。

一方、茶道や華道、書道、着物の着付けなどをやってはる人は皆、若い人が来ないと言っている。そこをコーディネートしたらいいんやないかということが始まりました。一年間で一〇万人です。

——これだけの大都市で、よくコミュニティがいかたちで回転しますね。東京では現在、公立校のレベルが落ちていっている一方で、富裕層とそうでない層との落差が拡大

してきている。それだけに、公教育の重要性が高まっています。

門川 明治維新以降、日本が発展を遂げてきた背景には、公教育の成果があります。今こそ公教育が頑張らなきゃならん。教育は総論ばかりが活発ですが、議論よりも決断と実践です。たとえば、〇五年四月に、京都市の学校約三〇〇校の敷地内を、全面禁煙にしました。いささか強引やというご批判も受けましたが、おとなの都合ではなく、子どもにとってよいと思われることを可及的速やかに実践できるかどうかが問われます。

やはり、公教育で、すべての子どもを徹底的に大事にするというのが京都の教育の伝統なんやと。一人も落ちこぼれないよう、同時に、一人も退屈させない教育。この二つを目標に取り組んでいくと思います。

公教育の衰退によって、有力大学に進学するには私立学校で学ぶことが条件のようになってきている。それは裕福な家庭でなくては難しい。教育が貧富で差別されているのが現状だ。門川さんはそのような現状を打破したいと公教育のレベル向上に情熱を傾けている。それを地域代表や企業などにより実現しようとしている。

京都市の教育改革は、聞けば聞くほど驚くべきものだった。京都の先進的試みが、他の都市に伝播してほしいと願わずにいられない。